少中空デハアルガ中部以上ハドノ程デモ漸々肉ガ薄クナッテ尋常ノ竹ノ様ニ大ナル空洞トナッテ居ル、彼ノ篠(とう)ノ様ニ全然中實シタ竹ノ種類ハ臺灣デモ見ラレナイバカリデナク恐ラクコンナ竹ハ何處ニモアルマイ

又第八頁ニ「にがな、じしばり等」トアル此じしばりハ當ニぢしばりト書カネバナラヌ是レハ地縛ノ意デアルカラデアル

又第十頁ニ「かきつばた、太キ脈アリ幅廣シ」トアレドモかきつばたノ葉ニハ決シテ太キ脈ハナイ

又第十八頁ニ「觀賞用ノ菊ハ花部ノ變化甚ダシク結實セザルモノ多シ爲メニ根分ケ挿木ニヨリテ繁殖セシム」トアルガ是レモ徹底シタ書キ方デハナイ、菊ノ花ノ舌狀花ニハ種々ノ變化ハアルガ大抵ハ嚴存セル中心花ト共ニ結實シ能ク種子ガ出來ル菊作リハ此種子ヲ蒔テ變リ品ヲ索ムル事ガアル又菊ノ根分ケ、菊ノ挿木ハ何ニモ花ニ種子ガ出來ナイカラスル方法デハナイ是レハ親木通リノ品種ヲ續カシテ作リタイカラデアル

思フニ上ニ擧ゲタ様ナ滑稽ヤ誤謬ハ一日モ早ク訂正シ確實ナル智識ヲ少國民ニ授ケラレンコトヲ切ニ望ム

○民間藥トシテあまどころ並ニおもとノ功能

横濱植物會會員、伊藤初太郎

あまどころ及ビ**なるこゆり**ノ功能　此兩者ハ素人ニハ見分ケガ出來ヌト見エテ千葉縣下デハ共ニあまどころト俗稱シテ居ル、手足ヲ挫(クジ)キシ時其局所ヘ該草ノ地下莖ヲ擦リ潰シ之レニ少量ノ糊ヲ加ヘ貼附スル時ハ僅カ數日ニシテ全癒スル同地方ニテハ皆此療法ヲ用ヰ更ニ醫藥ヲ顧ミナイ程デアル冬時ニテハ豫ジメ該草自生ノ地ヲ覺エオキテ掘リ採テ用ウル

おもとノ功能　或ル人カラ「何ニ咳ニヨラズ咳ノ出ル時ハおもとノ根即チだんご又ノ名いも「實ハ地下莖」ヲ擦リ潰シ其汁ヲ度々服用シテ可イ」ト聞イタ、ソコデ自分ハ之ヲ實驗シテ見タガ頗ル能ク利イタ即チ其法ハ

其地下莖ヲ擦リ潰シ其液汁ヲ用ウルノデアルガ其味ガ頗ル苦イカラ先ヅ地下莖ヲいんげん豆大ニ切リ其レヲ更ニ刻ミテ細末トナシ其液汁ト共ニ之ヲ「オブラート」ニ包ミ一日ニ三回服用スルノデアルソシテ實驗ノ結果ハ彼ノ水飴ト大根トノ混合汁ヨリ以上ノ成績ガアルト認メタ

〔牧野富太郎曰フ〕咳ヲ止メル藥トシテ頗ル能ク利クモノヲ今一ツ紹介シヨウ、其レハ**せんなりほほづき**ノ果實デアル此果實ハ豌豆粒位ノ大サガアルガ其生ノモノデモ乾シタモノデモヨイガ之ヲ一掴ミ位ヲ水ニテ煎ジ其煎汁ヲ盃ニ一杯位用ウレバ咳ハ直グニ治ル是レハ又百日咳ヘデサヘモ利クトノコトデアル此せんなりほほづきヲ庭先キナドニ栽ヱテ置ケバ機ニ臨ンデ直グニ用ヰラレ甚ダ重寶デアル是レハなす科ノ一年生草本デ時ニ圃ナドニ自然ニ生ジテ居ルコトガアル淡黄色ノ小サキ花ヲ開キ葉下ニほほづき樣ノ實ガ下ガリ熟シテモ綠色デアルコンナ實ガ澤山出來ルカラ千なりほほづきト稱スル東京デハ七月盂蘭盆會ノ時聖靈祭ノ靈棚ニ供センガ爲メ盆市デ之レヲ賣ッテ居ル多分是レハ丹波ほほづきノ代用品ノ心算デアラウト思フ

○蘚類雜記（一）

富山縣　樫廼舍　笹岡久彦

○所謂Pterobryopsis japonica Broth. ニ就テ

予曾テ伊勢ノ國ニ滯在中、四日市市ノ川崎光次郎氏ヲ訪ヒ親シク其話ヲ聽キ且ツ其際同氏ヨリ同國鎌ケ嶽産ナル一珍蘚 Pterobryopsis japonica Broth. ノ少許ヲ惠マル即チ川崎氏が著述「菰野山植物」第六十八頁ニ掲グルプテロブリオプシス、ヤポニカニシテ其註ニ曰ク『昨年著者鎌ケ嶽頂上樹上ニ蒼生せるものを露國蘚類の大家ブロテルス新種なりとし上述の新稱を命ぜられたり余は和名をコモノゴケと命じたり』ト

其後岡村周諦博士ハ川崎氏ト同鄕ナル村田吉太郎氏ガ鎌ケ嶽ノ隣嶺ナル御在所ケ嶽ニテ採集セラレタル一珍蘚 Meteoriella soluta (Mitt.) Sh. Okam. ヲ松村博士監修植物圖編第三編第一集及ビ理科大學紀要第三十六冊第七編ニ記載發表セラレ幸ニ予モ亦該高著一本ノ惠與ヲ受ケタルヲ以テ熟讀スルニ前記こものごけト全然一致スル